



2017年夏季ボーナスアンケート調査(宮崎県内) ～インターネットアンケート調査～

当研究所は、宮崎県内における消費動向や生活実感などを探るため、ボーナスアンケート調査を実施している。今回、県内の給与所得者を対象にインターネットアンケートによる夏季ボーナス調査を実施し、結果をまとめた。

【調査結果の概要】

1. 夏季ボーナスは、全体の74.3%が「支給される」と回答した。増減見込みは「同じくらい」が65.5%と、前年並みを見込む回答が最も多い。
2. ボーナスの見込み額は「10万円以上30万円未満(42.2%)」が最も多い。
3. 使いみちは「貯蓄(64.6%)」が最多で、貯蓄の目的は「老後の生活(44.3%)」、貯蓄の方法は「定期性預貯金(59.4%)」が最も多い。
4. ローン返済は、「自動車(55.6%)」が最も多い。
5. ボーナスでの購入予定品は「衣料品(55.0%)」、「靴、バッグ類(26.6%)」が多く、買物予定先は「ショッピングセンター(46.8%)」が最多だった。県外での買物予定地は、九州5市(※)の中で「大分市(52.2%)」が最も多い。
6. 今後の旅行、レジャーの行先は「九州内」が70.3%と最も多い。
7. 生活状況は「変わらない(62.3%)」が最も多いものの、DIは「▲5.5」と前年比1.0ポイント(P)悪化し、改善していない。

※ 福岡市、北九州市、大分市、熊本市、鹿児島市の5市

調査の実施要領

調査時期：2017年5月12日(金)～5月19日(金)

調査対象：宮崎県内の給与所得者

調査方法：インターネットアンケート(マクロミル社)

回答者数：523名

回答者の属性 (単位：人、%)

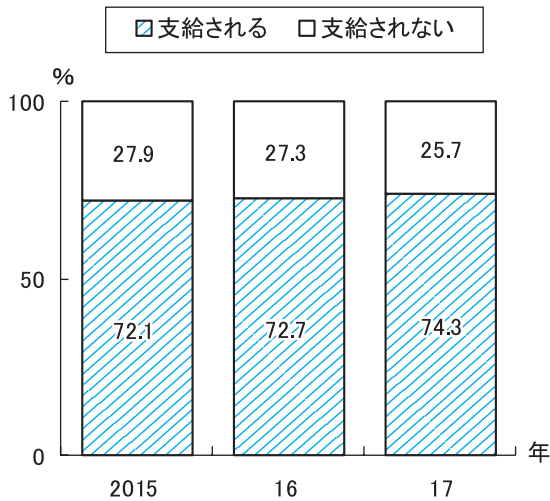
年代別	人数	構成比	世帯別	人数	構成比	性別	人数	構成比	職業	人数	構成比	
20歳代以下	124	23.7	独身	218	41.7	男性	261	49.9	会社員	472	90.2	
30歳代	137	26.2	既婚	子供有り	245	46.8	女性	262	50.1	公務員	51	9.8
40歳代	132	25.2		子供無し	60	11.5	合計	523	100.0	合計	523	100.0
50歳代以上	130	24.9	合計	523	100.0							
合計	523	100.0										

1. ボーナス支給の有無と増減見込み

(1) 「支給される」が74.3%

夏のボーナスは「支給される」が74.3%、「支給されない」は25.7%となった(図1)。

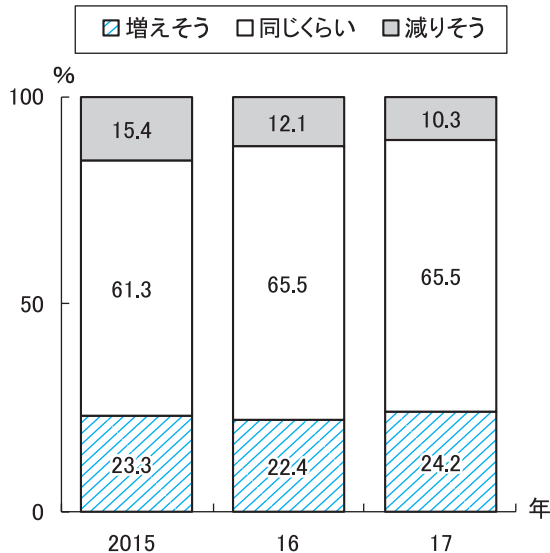
図1. 夏季ボーナス支給の有無



(2) 増減見込みは「同じくらい」が最多

今回のボーナス支給見込みは、前年と「同じくらい」が65.5%と最も多く、以下「増えそう(24.2%)」「減りそう(10.3%)」と、7割近くが前年並みのボーナス支給額を見込んでいる(図2)。

図2. 夏季ボーナスの増減見込み



2. ボーナスの見込み額

「10万円以上30万円未満」が最多

ボーナスの見込み額は、全体で「10万円～30万円未満(42.2%)」が最も多く、「30万円～50万円未満(28.0%)」と続いた(図3)。

会社員は、「10万円～30万円未満」が47.3%と最も多く、前年比1.4P上昇した(表1)。「50万円～80万円未満」「80万円～100万円未満」の割合は、前年よりそれぞれ低下した(表1)。

図3. ボーナスの見込み額

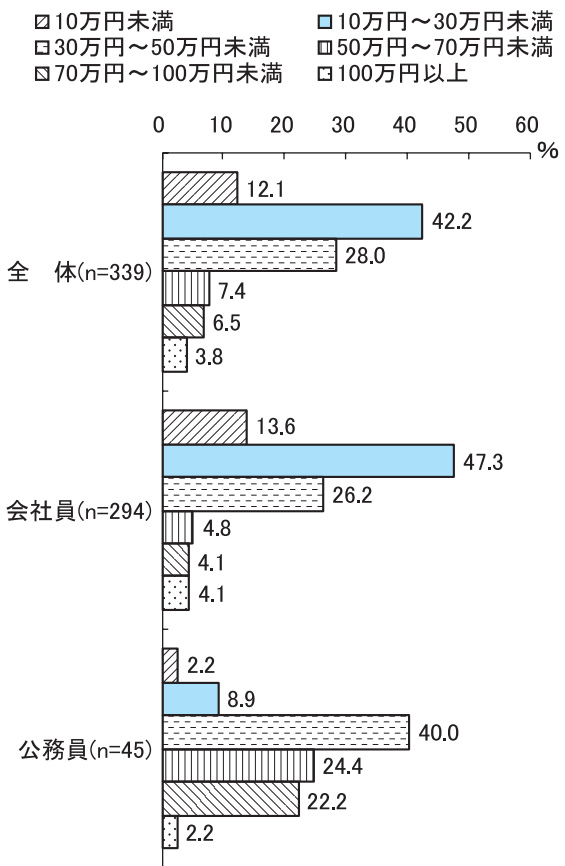


表1. 会社員の見込み額

(単位: %, P)

年	金額 10万円 未満	10万円～ 30万円 未満	30万円～ 50万円 未満	50万円～ 80万円 未満	80万円～ 100万円 未満	100万円 以上
2017年	13.6	47.3	26.2	4.8	4.1	4.1
2016年	12.8	45.9	20.3	11.7	6.8	2.6
前年比	0.8	1.4	5.9	▲6.9	▲2.7	1.5

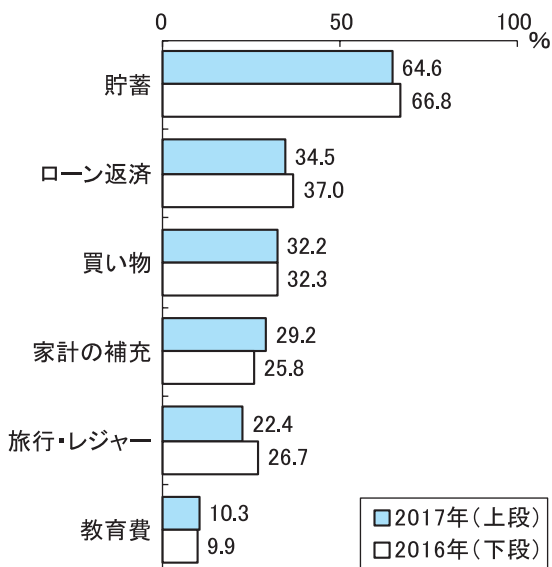
3. ボーナスの使いみち(複数回答)

「貯蓄」が最多

ボーナスの使いみちは「貯蓄(64.6%)」が最も多く、以下「ローン返済(34.5%)」「買い物(32.2%)」「家計の補充(29.2%)」と続いた(図4)。

前年比では「貯蓄」「ローン返済」「旅行・レジャー」が低下し、「家計の補充」は上昇した。

図4. ボーナスの使いみち(複数回答)



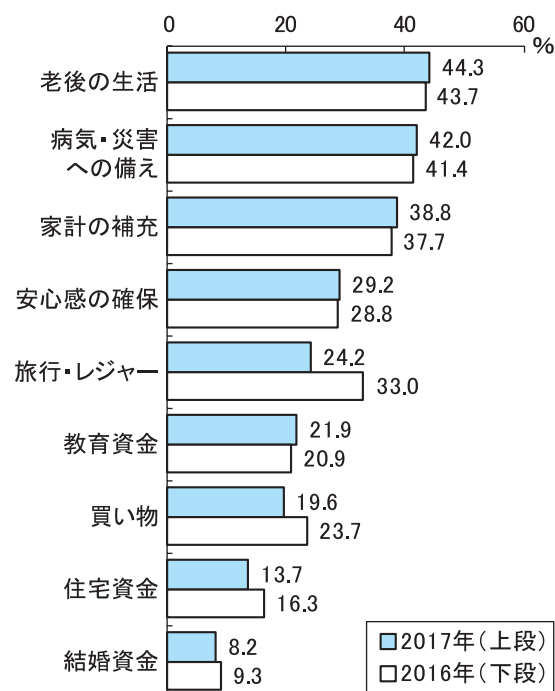
(1) 「貯蓄」

①貯蓄の目的(複数回答)

「老後の生活」が最多

貯蓄の主な目的は「老後の生活」が44.3%と最も多く、次いで「病気・災害への備え(42.0%)」と続き、将来の社会保障費や医療費、災害への関心が高かった(図5)。また、「家計の補充」も38.8%と、生活費の補填を目的とする回答も多かった。上位4位は前年よりわずかに上昇したが、5位以下では「旅行・レジャー」「買い物」の低下が目立った。

図5. 貯蓄の目的(複数回答)

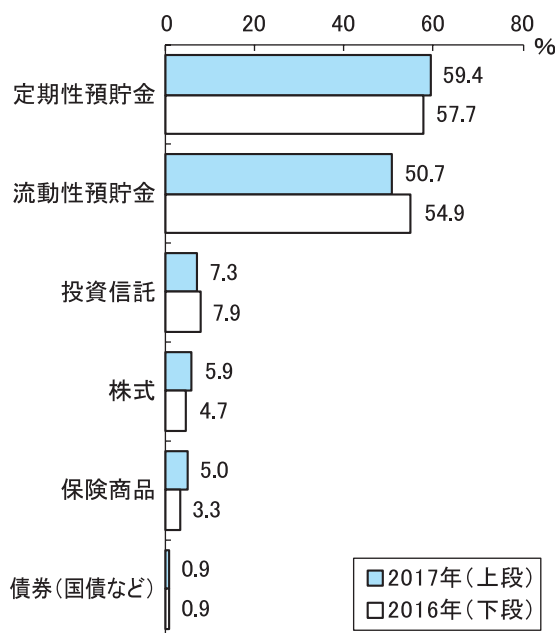


②貯蓄の方法(複数回答)

「定期性預貯金」が最多

貯蓄の方法は、「定期性預貯金(59.4%)」が最も多く、2位は「流動性預貯金(50.7%)」と、預貯金志向が依然強い(図6)。預貯金以外の割合は、1割未満と、総じて低い。

図6. 貯蓄の方法(複数回答)



(2) 「ローン返済」(複数回答)

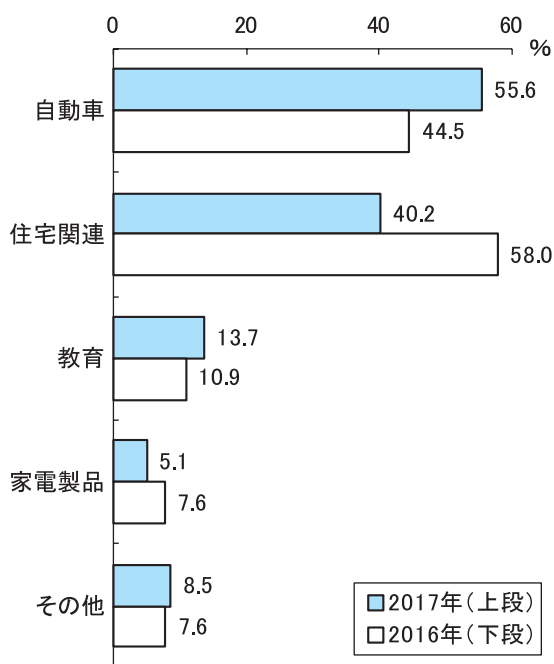
「自動車」が55.6%

ローン返済では「自動車(55.6%)」が最も多く、次いで「住宅関連(40.2%)」となった(図7)。「住宅関連」は前年比17.8 P低下し、「自動車」が同11.1 P上昇したことで、順位が入れ替わった。

今回の調査では、回答数に占める独身や20歳代以下の割合が前年より上昇(※)したことが、ローン返済の結果に一部反映されたと考えられる。

※独身は前年比+5.5 P、既婚者が▲5.5 P
20歳代は同+6.1 P

図7. ローン返済予定の内容(複数回答)



(3) 「買物」

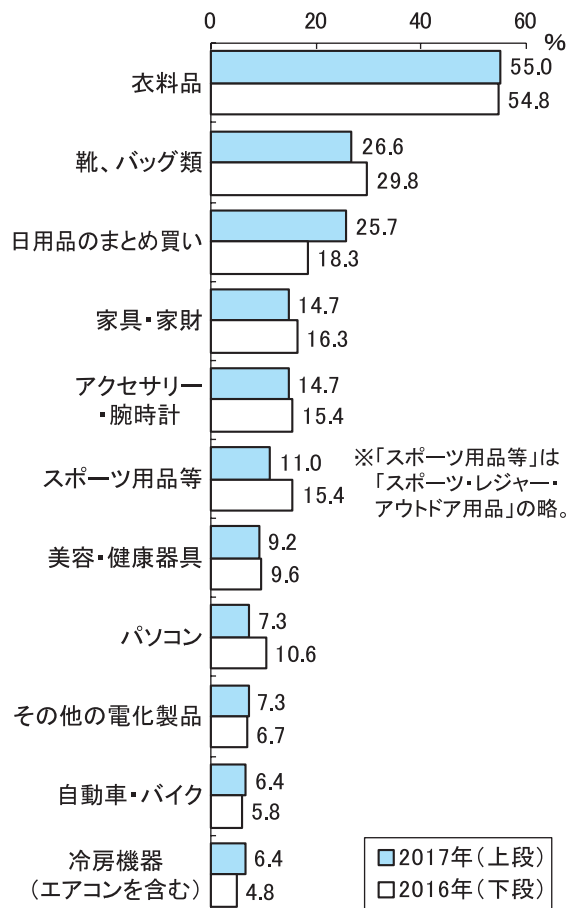
①購入予定品(複数回答)

「衣料品」が最多

購入予定品は「衣料品(55.0%)」が最も多く、「靴、バッグ類(26.6%)」「日用品のまとめ買い(25.7%)」と続いた(図8)。

前年比では、「日用品のまとめ買い(+7.4 P)」が上昇し、「靴、バッグ類(▲3.2 P)」「スポーツ用品等(▲4.4 P)」「パソコン(▲3.3 P)」は低下した。

図8. 購入予定品(複数回答)



②買物予定先の店舗形態(複数回答)

ショッピングセンターがトップ

買物予定先の店舗形態では「ショッピングセンター(大型店)(以下「SC」)(46.8%)」が最多で、以下「通販・ネット販売(37.6%)」となった(次頁表2)。

居住地別では、都城市の66.7%、延岡市の42.9%が「SC」と答えた。宮崎市は、「通販・ネット販売(40.4%)」が最も多く、SCを除く全ての店舗形態で前年比上昇した。

表2. 買物予定先の店舗形態(複数回答)

(単位: %)

買物先 居住地	SC (大型店)	通販・ ネット販売	デパート・ 百貨店	量販店	専門店
全体	46.8	37.6	29.4	22.9	30.3
	51.9	44.2	26.9	26.9	22.1
宮崎市	36.2	40.4	29.8	34.0	31.9
	38.9	36.1	25.0	33.3	27.8
都城市	66.7	33.3	13.3	20.0	13.3
	50.0	50.0	27.8	16.7	16.7
延岡市	42.9	38.1	33.3	4.8	28.6
	68.2	31.8	40.9	36.4	22.7

回答者数 101 人

※上段:2017年 下段:2016年

③買物予定地(複数回答)

「宮崎地区(注1)」「都城地区(注2)」「延岡地区(注3)」「小林地区(注5)」は、いずれも地元を買物予定地とする回答が最も多い(表3)。前年比では、「宮崎地区」「都城地区」「延岡地区」で地元の割合がそれぞれ上昇した。

「県外」は、「日南地区」の全回答者、「延岡地区」の40.6%(前年比+4.5P)が買物予定地に挙げた。

表3. 買物予定地(複数回答、居住地別)

(単位: %)

買物地 居住地	宮崎市	都城市	延岡市	日南市	小林市	県外
宮崎地区 (注1)	97.9	2.1	-	-	-	10.4
	92.3	-	-	-	-	7.7
都城地区 (注2)	43.8	87.5	-	-	-	12.5
	47.1	76.5	-	-	-	17.6
延岡地区 (注3)	34.4	-	56.3	-	-	40.6
	44.4	5.6	55.6	-	-	36.1
日南地区 (注4)	100.0	100.0	-	-	-	100.0
	-	-	-	-	-	-
小林地区 (注5)	33.3	33.3	-	-	33.3	33.3
	100.0	100.0	-	-	100.0	-

回答者数 101 人

※上段:2017年 下段:2016年

(注1) 宮崎市、西都市、東諸県郡、児湯郡

(注2) 都城市、北諸県郡

(注3) 延岡市、日向市、東臼杵郡、西臼杵郡

(注4) 日南市、串間市

(注5) 小林市、えびの市、西諸県郡

④県外での買物予定地(複数回答)

表3の「県外」の内訳では、「大分市

(52.2%)」が最も多く、「福岡市(39.1%)」「鹿児島市(30.4%)」となった(表4)。

本問を調査に加えた1996年以降、「福岡市」が第1位で推移していたが、今回、初めて「大分市」が最多となり、東九州自動車道によるアクセスの改善から買物予定地とする回答が増えたと思われる。また、今回新たに予定地に加えた「北九州市」は8.7%の回答があった。

表4. 県外での買物予定地(複数回答)

(単位: %)

年	大分市	福岡市	鹿児島市	北九州市	熊本市
2017年	52.2	39.1	30.4	8.7	8.7
2016年	42.1	47.4	26.3	-	10.5

回答者数 19 人

4. 最近の県外での買物動向

(1) 買物頻度

最近1年間の、県外主要5市への買物頻度は、全ての市で「1回」が最も多かった(表5)。

表5. 県外での買物頻度(複数回答)(単位: %)

頻度	福岡市	北九州市	熊本市	鹿児島市	大分市
1回	55.1	59.2	53.6	43.2	45.9
	53.3	-	37.6	46.2	47.1
2~4回	33.2	20.4	29.7	41.1	32.0
	33.3	-	15.2	25.2	22.9
5~9回	7.3	6.1	5.8	7.6	13.3
	8.6	-	3.8	9.0	6.2
10回以上	4.4	14.3	10.9	8.1	8.8
	4.8	-	4.3	3.8	6.2

回答者数 205 人

※上段:2017年 下段:2016年

(2) 交通手段

県外主要5市への交通手段は、北九州市、熊本市、鹿児島市、大分市で「乗用車」が7~9割と、圧倒的に多い。福岡市も「乗用車(54.1%)」が最も多いが、「高速バス」も24.9%あった(次頁表6)。

表6. 県外主要5市への交通手段 (単位: %)

交通手段	福岡市	北九州市	熊本市	鹿児島市	大分市
乗 用 車	54.1	73.5	87.0	89.2	91.7
	50.0	-	89.8	83.6	90.8
高速バス	24.9	10.2	9.4	3.8	2.8
	29.0	-	8.6	3.4	4.0
J R	2.9	10.2	2.2	5.9	4.4
	3.8	-	-	11.9	4.0
飛 行 機	16.1	6.1	-	-	-
	17.1	-	-	-	-
B & S (※)	0.5	-	-	-	-
	-	-	-	-	-

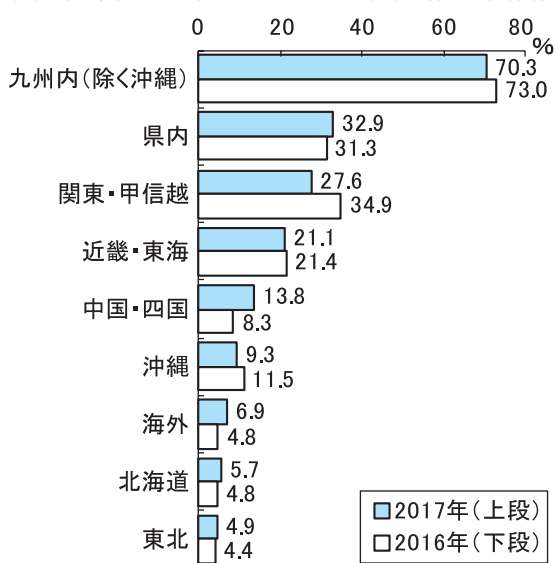
回答者数 205 人 ※上段:2017年 下段:2016年
 ※「B & Sみやざき」の略称。Bus & Shinkansenの頭文字で、博多駅～新八代駅(熊本)～宮崎駅間を新幹線と高速バスで運行する

5. 今後の旅行・レジャーの行先(複数回答) 「九州内」が最多

今後の旅行・レジャーの行先は、「九州内(70.3%)」が最多で、「県内(32.9%)」「関東・甲信越(27.6%)」と続いた(図9)。

「県内」は前年比1.6P上昇し、「関東・甲信越」が同7.3P低下したことで、2位と3位が逆転した。

図9. 今後の旅行・レジャーの行先(複数回答)



6. 現在の生活状況

全体では「変わらない」が62.3%

現在の生活状況は、全体では「変わら

ない(62.3%)」が最も多く、「悪くなった」は21.6%、「良くなった」が16.1%で生活状況DI(注)は▲5.5となった(表7)。生活状況別でも、「変わらない」がそれぞれ最も多かった。「良くなった」は衣生活を除き前年より上昇したが、「悪くなった」も総じて上昇したことから、全体のDIは同1.0P悪化した(図10)。

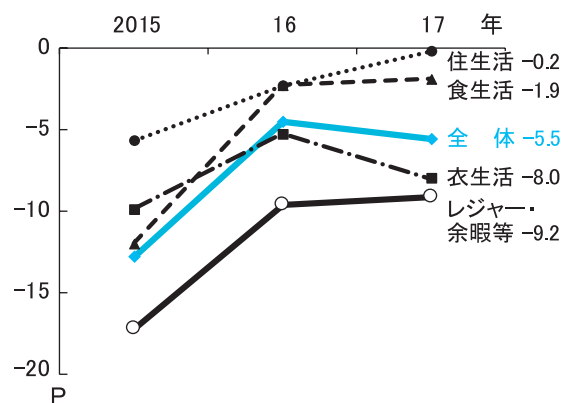
(注) DI = 「良くなった」割合 - 「悪くなった」割合

表7. 現在の生活状況 (単位: %)

生活状況	良くなった	変わらない	悪くなった	DI
全 体	16.1	62.3	21.6	▲5.5
	14.8	65.9	19.3	▲4.5
衣生活	9.6	72.8	17.6	▲8.0
	10.0	74.7	15.3	▲5.3
食生活	14.9	68.3	16.8	▲1.9
	12.5	72.8	14.8	▲2.3
住生活	13.2	73.4	13.4	▲0.2
	10.2	77.4	12.5	▲2.3
レジャー・余暇等	15.9	59.1	25.0	▲9.2
	13.4	63.6	23.0	▲9.6

※上段:2017年 下段:2016年

図10. 生活状況DIの推移



今回の調査でも、前年並みのボーナス支給額を見込む回答が多い中で、老後、災害、医療の備えや生活費の補填を目的とした定期性預貯金への貯蓄志向が依然強かった。生活状況の目立った改善がみられない中、今後ともボーナスの使いみちを注視する必要がある。(勝池)